

---

---

2016 年度（平成 28 年度）

# 事業報告書

平成 29 年 5 月 26 日

学校法人 玉手山学園

---

---

## I. はじめに

### 夢と志を育てる学園をめざす 第2期(2013~2017)学園中長期計画 4年目遂行

#### 0~5歳の一貫教育を 幼稚園教職員の新たなチャレンジ

幼稚園は、平成30年4月に“認定こども園”へ進化・成長します。人格形成に大きく影響する0~5歳の一貫教育は、教育人としての醍醐味であり大きな責任があります。幼稚園教職員は新たなチャレンジを決意しました。Kanjo幼稚園の伝統・実績をもとに、一層の教育機能向上をめざし社会のニーズに応えます。



幼稚園教職員が新たなチャレンジ! ▶

#### 「高校本館」(堂々の8階建)完成 新しい高校の顔



待望の高校新校舎「高校本館」が平成29年3月に竣工しました。「誠実に良質の教育サービス提供に徹し、評価してもら(学生・生徒を集める)！」という教職員の信念・気概が、この新校舎を造りました。イメージ一新、“元気印”高校の新しい顔(夢と志の象徴)となるでしょう。大いに学び豊かな高校生活を送ってほしいと願います。」

「高校本館」2017.3竣工 堂々の8階建て  
◀ 新たな高校の顔(夢と志の象徴)

#### 大学「5学部6学科」体制(平成28年4月) 実直教育

大学に心理科学部・教育学部が加わり、5学部6学科体制となり教育の幅が広がりました。学長はじめ関係教職員の情熱・尽力に深謝し、敬意を表します。新学部は1年目を無事に終え、学生募集活動は容易ではありませんが、実直な教育活動に徹し、学生を伸ばし社会の評価を高めてまいります。



大学6号館 模擬授業実践室  
夢と志を育てる教員を育てたい! ▶

## Táma Próject 2017 実行決定 学園の元気力を発信

大学 20th、高校本館竣工(学園 75th)を記念して Táma Próject 2017の実行を決定しました。メインは“玉手山学園祭(2017.8.27)”で、一人でも多く(地元の人も)の人に学園の元気力を感じ楽しんでもら



えれば学園も成長できます。学園全員(学生 生徒 園児 教職員)で汗を流し“シンドイけれど達成感”を味わいます。学園初の試み、“Yattemiyou!”の心意気です。

◀ Táma Pró 2017 学園全員で汗を初の取り組み Yattemiyou!の心意気

## 地域連携で学園は育つ 「地域連携公認プログラム」の選定

学園には教職員の善意、尽力により色々な地域連携の取り組みがあります。それらを学園全体で共有し、組織的取組としてしっかりと支援していく、その対象に値するものを「地域連携公認プログラム」と定め、第1回目の選定をいたしました。学園の持てる力を地域に積極的に活かせば、地域に喜ばれ学園も成長できます。



▲ 地域連携プログラム 玉手山学園スポーツ教室(バレーボール) 年々盛況に

学園総力結集の“2016年度 教育事業”を報告いたします。教職員の尽力に感謝。

恩感

2017年5月26日

理事長・学園長 江端 源治

## 建学の精神「感恩」

人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている  
この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって  
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは社会に貢献できる

～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から  
新しい「ありがとう」が生まれる～

## 使命

建学の精神「感恩」を心得 実践する人を育成し 豊かな未来社会をつくる

## 綱領

1. 学生 生徒 園児のもてる力 志をひきだす  
その教育実践により 学園職員も豊かになる
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め  
その使命を誠実に遂行し 未来を拓く「知」を継承 創造する
3. 各校園は 伝統を重んじ 教育理念のもと 具体的な教育目標を掲げ  
常に改革の意識をもって 創意工夫 試行を重ね その達成に総力を結集する
4. 継続 発展を支える確かな組織力と健全な財政基盤の確立に努める

## ビジョン

### 【玉手山学園がめざすもの】

1. 夢と志を育てる学園  
～笑顔あいさつ優しさを大切に～（学園ブランドの確立）
2. 学園教育力の向上
  - ・教育の質向上（学修成果・修学成就の向上）
  - ・組織拡充
  - ・4校園体制堅持と発展（大学 短期大学 高等学校 幼稚園(子育て支援)）
  - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に愛され 成長する学園
4. 教育環境の充実（安心 安全 快適 ECO）
5. 学園総合力の向上
  - ・各校園の相互協力（学園ファミリー意識）

## II. 法人の概要

### 1. 沿革

年月日		沿革
昭和 17 年	3 月	財団法人山田学園認可 玉手山高等女学校 設置認可
昭和 22 年	4 月	玉手山中学校 設置 玉手山女子専門学校 設置
昭和 23 年	4 月	学制改革により玉手山高等学校と改称
昭和 25 年	3 月	玉手山女子専門学校 廃止
昭和 26 年	3 月	学校法人玉手山学園に組織変更
昭和 40 年	3 月	玉手山中学校 廃止
昭和 40 年	4 月	玉手山女子短期大学 家政科・保育科 設置 玉手山女子短期大学附属幼稚園 設置
昭和 41 年	10 月	玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称
昭和 42 年	4 月	関西女子短期大学 保健科 設置
昭和 45 年	4 月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院 設置 (昭和 56 年関西女子医療技術専門学校へ移行)
昭和 49 年	3 月	関西女子短期大学 家政科 廃止
昭和 49 年	4 月	玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称
昭和 56 年	4 月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院を改組の上、関西女子医療技術専門学校医療秘書学科設置
平成 4 年	4 月	関西女子医療技術専門学校 ビジネス秘書学科 設置
平成 7 年	3 月	関西女子医療技術専門学校 歯科技工士学科 廃止
平成 7 年	4 月	関西女子医療技術専門学校 理学療法学科 設置
平成 8 年	4 月	関西女子医療技術専門学校 作業療法学科・介護福祉学科 設置 関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科とビジネス秘書学科を統合し、医療ビジネス学科に改称
平成 9 年	4 月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 設置
平成 10 年	4 月	関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称し、男女共学実施
平成 11 年	4 月	関西福祉科学大学高等学校 特別進学コースのみ男女共学実施
平成 13 年	4 月	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 設置 関西女子短期大学 福祉栄養学科 設置 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 設置
平成 15 年	4 月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科 設置 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科 設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士後期課程) 設置 社会福祉学研究科心理臨床学専攻 設置
平成 16 年	3 月	関西女子短期大学 福祉栄養学科 廃止

年月日		沿革
平成 17 年	4 月	関西女子短期大学 歯科衛生学科 (3 年制) 設置
平成 18 年	4 月	関西医療技術専門学校 医療ビジネス学科を診療情報管理学科・診療情報管理専攻科に改組 関西福祉科学大学高等学校 3 コース制導入 (特別進学 I、特別進学 II、総合進学)
平成 21 年	3 月	関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 廃止
平成 22 年	4 月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 設置
平成 23 年	3 月	関西医療技術専門学校 診療情報管理専攻科 廃止
平成 23 年	4 月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻 設置 関西女子短期大学 医療秘書学科・医療秘書学専攻科 設置
平成 24 年	3 月	関西医療技術専門学校 介護福祉学科・診療情報管理学科 廃止
平成 25 年	3 月	関西医療技術専門学校 廃止
平成 25 年	4 月	関西福祉科学大学高等学校 3 コース制を 4 コース制に改編 (特別進学 I、特別進学 II、進学、保育進学)
平成 25 年	8 月	関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所 設置 (9 月診療開始)
平成 26 年	4 月	関西女子短期大学 保育科を保育学科に、保健科を養護保健学科に名称変更
平成 27 年	4 月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻 設置
平成 28 年	4 月	関西福祉科学大学 心理科学部心理科学科 設置 教育学部教育学科子ども教育専攻・発達支援教育専攻 設置

## 2. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻 (博士前期課程)	平成 13 年
		臨床福祉学専攻 (博士後期課程)	平成 15 年
		心理臨床学専攻 (修士課程)	平成 15 年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成 9 年
		臨床心理学科	平成 15 年
	心理科学部	心理科学科	平成 28 年
	教育学部	教育学科	平成 28 年
		子ども教育専攻	
		発達支援教育専攻	
	健康福祉学部	健康科学科	平成 15 年
		福祉栄養学科	平成 15 年
	保健医療学部	リハビリテーション学科	平成 23 年
		理学療法学専攻	
作業療法学専攻			
言語聴覚学専攻			
	特別支援教育専攻科	平成 22 年	
関西女子短期大学	保育学科	昭和 40 年	
	養護保健学科	昭和 42 年	
	歯科衛生学科	平成 17 年	
	医療秘書学科	平成 23 年	
	医療秘書学専攻科	平成 23 年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和 17 年	
関西女子短期大学附属幼稚園		昭和 40 年	

※関西福祉科学大学社会福祉学部臨床心理学科は平成 28 年 4 月より学生募集停止

※関西福祉科学大学特別支援教育専攻科は平成 28 年 4 月より学生募集停止

### 3. 学生・生徒・園児数

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

研究科・学部・学科・専攻等		入学定員	編入学定員 (3年次)	学年 進行中の 収容定員	H28年度在籍者数(現員) H28.5.1				H27年度 卒業生数
					1年生	2年生	3年生	4年生	
社会福祉学 研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	5	4			3
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	2	0	2		3
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	5	10			10
大学院 計		33	0	69	12	14	2		16
					28				
社会福祉学部	社会福祉学科	140	20	740	169	167	167	201	168
	臨床心理学科		20	250		54	80	87	45
計		140	40	990	169	221	247	288	213
					925				
心理科学部	心理科学科	110		110	104	—	—	—	—
計		110	0	110	104	—	—	—	—
					104				
教育学部	教育学科	100	0	100	81	—	—	—	—
	子ども教育専攻	50	0	50	25	—	—	—	—
	発達支援教育専攻	50	0	50	56	—	—	—	—
計		100	0	100	81	—	—	—	—
					81				
健康福祉学部	健康科学科	80	10	340	82	82	88	89	82
	福祉栄養学科	80	5	330	78	78	68	78	81
計		160	15	670	160	160	156	167	163
					643				
保健医療学部	リハビリテーション学科	170	0	570	179	174	132	106	97
	理学療法学専攻	80	0	320	84	87	96	62	67
	作業療法学専攻	50	0	170	60	56	36	44	30
	言語聴覚学専攻	40	0	80	35	31	—	—	—
計		170	0	570	179	174	132	106	97
					591				
大学 計		680	55	2,440	2,344				473
特別支援教育専攻科					1				8

(「平成 28 年度学校基本調査 (平成 28 年 5 月 1 日現在)」より)

※社会福祉学科は平成 28 年 4 月より入学定員変更 180 名→140 名

※社会福祉学科は平成 28 年 4 月より編入学定員変更 40 名→20 名

※臨床心理学科は平成 28 年 4 月より学生募集停止

※心理科学科、教育学科は平成 28 年 4 月開設

※リハビリテーション学科作業療法学専攻は平成 28 年 4 月より入学定員変更 40 名→50 名

※リハビリテーション学科言語聴覚学専攻は平成 27 年 4 月開設

※特別支援教育専攻科は平成 28 年 4 月より学生募集停止

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科・専攻科	入学定員	収容定員	H28年度在籍者数(現員) H28.5.1			H27年度 卒業生数	
			1年生	2年生	3年生		
保育学科	120	220	114	112		105	
養護保健学科	40	80	38	50		45	
歯科衛生学科	100	300	119	109	118	100	
医療秘書学科	40	100	40	55		45	
短大 計	300	700	311	326	118	295	
					755		
医療秘書学専攻科	10	10	0			0	

(「平成 28 年度学校基本調査 (平成 28 年 5 月 1 日現在)」より)

※保育学科は平成 28 年 4 月より入学定員変更 100 名→120 名

※医療秘書学科は平成 28 年 4 月より入学定員変更 60 名→40 名

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H28年度在籍者数(現員) H28.5.1			H27年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
関西福祉科学大学高等学校	270	810	427	365	319	352
高校 計	270	810	1,111			352

※入学定員は公募入学定員を表記（平成26年度270名、平成27年度270名、平成28年度270名）  
学則上の入学定員は470名

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H28年度在園児数(現員) H28.5.1				H27年度 卒園児数
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	3	108	137	118	116
幼稚園 計	—	495	366				116

※最年少は満3歳児クラスを示す

4. 役員・教職員の人数

(1) 役員

(単位：名)

役員、評議員	定員数	現員
理事	8～10	9
監事	2～3	2
評議員	21～25	23

(平成28年5月1日現在)

(2) 教職員数

(単位：名)

学校名	教員		職員	
	本務(専任)	兼務	本務(専任)	兼務
関西福祉科学大学	135	61	48	19
関西女子短期大学	38	53	15	28
関西福祉科学大学高等学校	61	33	5	13
関西女子短期大学附属幼稚園	19	4	0	15
法人	0	0	2	1
法人本部	0	0	19	12
関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所	0	0	5	2
合計	253	151	94	90

※兼務職員数は学生アルバイトを除いた人数にて示す

(平成28年5月1日現在)



〔専任教員内訳〕

＜関西福祉科学大学＞

(単位：名)

学部・学科		大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	14	7	6	6	3	5	2	2	1	2	0	0	12	15
心理科学部	心理科学科	10	5	8	2	0	2	2	2	0	0	0	0	10	6
教育学部	教育学科	10	5	7	3	3	3	2	0	0	0	0	0	12	6
健康福祉学部	健康科学科	14	7	6	3	3	3	0	1	0	0	0	0	9	7
	福祉栄養学科	10	5	6	1	1	4	2	2	0	0	0	0	9	7
保健医療学部	リハビリテーション学科	17	9	10	2	6	6	4	6	3	1	0	0	23	15
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		28	14												
合 計		103	52	43	17	16	23	12	13	4	3	0	0	75	56

※臨床心理学科は、心理科学部へ改組のため平成 28 年 4 月より学生募集停止 (平成 28 年 5 月 1 日現在)

※専任教員数には、臨床心理学科 (4 名) を除き、学長・副学長兼務者 (2 名) を含む

＜関西女子短期大学＞

(単位：名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保育学科	10	3	1	2	0	4	1	2	0	0	0	0	2	8	
養護保健学科	4	2	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	3	
歯科衛生学科	6	2	3	4	0	1	0	0	0	3	0	3	3	11	
医療秘書学科	4	2	0	2	0	3	0	0	0	3	0	0	0	8	
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数		5	2												
合 計		29	11	7	8	0	10	1	3	0	6	0	3	8	30

※専任教員数には、学長兼務者 (1 名) 含む

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

＜関西福祉科学大学高等学校＞

＜関西女子短期大学附属幼稚園＞

(単位：名)

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	46	15	61
関西女子短期大学附属幼稚園	1	18	19

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

### Ⅲ. 事業の概要（主な事業内容および進捗状況）

#### 関西福祉科学大学

##### 1. あいさつ、笑顔の励行（教職員から学生に）

- ・教職員に対しては教授会等各種会議にてあいさつや笑顔の重要性について確認し、学生に対してはアカデミックアドバイザー（AA）やゼミ担当教員を通じて指導するほか、懇親会・交流会等各種行事ごとに説明を行うなど徹底を図った。その結果、年々改善の兆しが見られるが、引続き励行すべき課題である。

##### 2. 学生の修学力向上

###### (1) 授業計画（シラバス）の充実

- ・「学修到達目標の設定と明確化」と連動させてシラバスの充実化に取り組み、作成スケジュールを明確にすることでチェック体制の強化を図った。

###### (2) 主体的な学修時間の実質的増加

- ・教育支援システム（manaba）を通じて自主研修を促進し、課題やレポート提出に活用することで学生の主体的な学習時間が増加しているが、活用度合いについては学科間で開きがある。
- ・各学科とも工夫を凝らしてアクティブラーニングを実践した。新設学部については設置計画の縛りがあるので、アクティブラーニングの要素を組み込めるか検討中である。
- ・自習スペースの物理的制約がある中、国家試験対策を含め自学自習の定着化に努めた。

###### (3) 授業への参加率の向上

- ・manaba の利用や活動頻度に応じて、専任教員を対象に manaba 講習会入門編、応用編を実施した。また、manaba 出席カード発行状況を学科別にデータ作成し、情報提供を行った。
- ・出席管理を強化し、学内グループウェアを通じて欠席情報を共有化した。欠席頻度の高い学生に対しては AA 担当教員が個別面談を実施した結果、学生の授業への復帰が見られるようになった。
- ・3 回連続欠席者が出た場合、担当の AA 教員にその事実を連絡し、出席を勧告するスキームを構築した。

##### 3. 国家試験、各種資格試験等の合格支援

- ・対策講座や模擬試験のほか、支援ツールの作成や合宿の開催等、各学科の特色に合わせたきめ細やかな指導を行い、国家試験や種資格試験等の合格に向けた支援に取り組んだ。

##### 4. 学部組織再編成構想の推進と新学部の円滑な運営

###### 【新学部の円滑な運営】

###### (1) 心理科学部心理科学科の円滑な運営

- ・学科会議の運営は順調であり、教員全員が主体的に議事録作成等に参画している。また、開設記念イベント等を通じて教員の一体感が形成された。
- ・心理科学科と臨床心理学科に係る教授会審議内容の調整ルールを策定することで、円滑な学部運営を行った。

###### (2) 教育学部教育学科の円滑な運営

- ・教育学部教育実習委員会規程に基づき委員会を立ち上げるとともに、委員会を定期的開催し、「実習の手引き」「実習の記録」の作成作業や実習先の確保、実習参加基準、実習評価基準等を検討した。

- ・入試広報業務に関連してオープンキャンパス担当作業班を設け、そのもとで学生募集活動を積極的に行った。
- ・4年生で開講される教職実践演習を円滑に行うため、「教育実践演習用カルテ」の作成を開始した。
- ・学部運営を踏まえた専任教員担当科目数の平準化及び専任教員交代に係る設置申請上の認可を得た（AC教員審査）。

#### 【社会福祉学部社会福祉学科への介護福祉士学校（課程）の設置（2017年4月）】

- ・近畿厚生局より介護福祉士学校設置認可を1月に得た。
- ・4年制大学で「介護福祉士」国家資格受験資格を得る意義と価値の明確化を検討し、オープンキャンパス等で情報発信した。

#### 5. 広報室の設置とホームページの活性化

- ・魅力向上のため新コンテンツ（オープンキャンパス参加促進用の企画ページ、大学紹介ページ等）、出願促進用の企画ページ、募集強化学科用の企画ページ等を追加した。
- ・認知向上や出願促進を目的として、リ・ターゲティング等のWEB広告を実施した。
- ・各学科の魅力発信力の向上を目的として、各学科から発信された新着情報のアクセス件数（PV）を全学科のHP担当者へ毎月情報を提供した。
- ・WEB広告制作会社を変更し、平成29年4月1日より新ホームページの運用を開始した。学科イメージ紹介用動画等の新コンテンツを制作中である。

### 関西女子短期大学

#### 1. ミッションの明確化と広報活動の充実

- ・教職員に対しては教授会等各種会議にてミッションの確認を行い、意識の共有を徹底した。学生に対しては各種式典やオリエンテーションにてミッションについて言及し、定着を図ったほか、ゼミや講義時に夢ノートや学生便覧を通して指導を行った。
- ・他大学調査の内容を踏まえ、学生募集資料等の改良に努めた。オープンキャンパスや広報の充実に向け、LINEを使った新企画の実施や動画配信による告知を行った。

#### 2. 教育改革推進

- ・シラバス、自己点検シート、授業評価、授業研究会等と連動させたティーチング・ポートフォリオを作成し、常時閲覧体制を整えた。
- ・夢ノートの更なる充実を図るため、全面的な見直しを行った。
- ・ラーニング・ポートフォリオに用いるファイルを学生に配布したが、完全な定着には至っていない。引き続き、ゼミを中心に定着に向けた指導を行う。
- ・学科独自の到達度テストや定期試験、各種検定試験を通じてアセスメントシステムを模索した。

#### 3. 就職活動支援とキャリア形成支援の充実

- ・各学科に応じた就職ガイダンスやライフデザイン講座、ビューティーアップセミナーを実施した。さらに、インターネットを利用した求人システムの導入など、学生の就職活動支援の充実を努めた。
- ・卒業生に対して就職状況についてのアンケートを行うことで動向を把握し、分析・考察結果を就職支援業務に活かした。また、教員免許講習や卒業生研究会、離職中の卒業生に対して再就職を支援するリフレッシュ講座等を実施し、卒業後のキャリアアップを支援した。

#### 4. 学園内学校園との連携強化

- ・各学科の専門領域を活かして学園高等学校、学園幼稚園で講義や衛生指導等を実施した。より充実したものとするため、継続して内容を見直していく。

### 関西福祉科学大学高等学校

#### 1. 生徒が、生き生きと学校生活を送ることができるよう、次の5項目を実践

- ① 授業を大切に
- ② 時間を守る
- ③ 笑顔で挨拶
- ④ 「ありがとう」の心を大切に
- ⑤ 課外活動を活発に

- ・生徒が充実した学校生活を送れるように、建学の精神「感恩」を基に5項目を意識した取り組みを実践した。
- ・4コース制の推進と実践においては、一人ひとりの進路実現に向け、進路説明会や受験補講、学習合宿、小論文対策、個別懇談などに取り組んだ。また、保育進学コースの3年間の集大成として「卒業公演」(ピアノ・太鼓演奏、劇、美術・家庭科の作品発表など)を実施した。

#### 2. 生徒の進路目標実現のため、教育の質の向上

- ・高大・高短連携推進の強化において、大学との連携では高大連携授業(高校生が本大学の講義を受講体験できる)を実施。短大とは、保育学科教員による通年授業「こどもと保育」「こども文化」「保育総合実習」を実施。また、学年全コースに本大学・短大の学内進学説明会を実施した。
- ・幼稚園との連携においては、保育進学コース1年の幼稚園実習と3年の「夏祭り」(お店屋さんごっこ)を実施した。
- ・併設大学53名・併設短大49名が内部進学し、外部も合わせると290名(大学162名、短大74名、専門学校54名)が進学を果たす。

#### 3. 課外活動へ積極的に参加できる教育環境の整備

- ・新入生対象のクラブ紹介を実施し、その後、体験入部期間を1週間設け、生徒が課外活動に積極的に参加できるようにした。
- ・高校マイクロバス利用により、クラブ移動、遠征試合などへの利便性を向上させ、また、高校新校舎(本館)建築に伴うグラウンドの縮小については、外部グラウンド(太子町立総合スポーツ公園)を借用し、部活動の練習場所を確保した。

#### 4. 高校新校舎の建築(平成29年3月竣工)

- ・3月に新校舎(高校本館)が竣工。全教室に電子黒板機能搭載のプロジェクターを配備し、ICT教室と併せてIT教育を実践するための最新システムを完備した。また、各種特別教室の他に、自主的に学ぶ機会を促進する「ラーニングコモンズ」や電動で展開・収納できるロールバックチェアと大型スクリーンを備え様々な用途に対応できる「多目的室」も設置し、一人ひとりの学びをより深化させる施設の整備が完了し、今後の教育効果が期待できる。

## 関西女子短期大学附属幼稚園

### 1. 生活環境・施設整備の充実と、楽しく活気ある幼稚園の構築

本園の特色である「お山のひろば」や園庭を活用して、同年齢の友達だけでなく、異年齢の友達と遊ぶことを意識的に取り入れることで、人とかかわる力をはぐくみ、社会性を育てることができた。また、園庭開放やオープンスクールにて、卒園生や近隣の未就園児の来園者数が増えてきている。未就園児の保護者も幼稚園の様子を知ることができ、広い園庭での遊びを楽しんでいる様子が見られる。

### 2. 保育実践力、教員として望ましい資質・能力の向上

教職員は職務を円滑に進めるために、研修会に積極的に参加し報告会を行うなど、情報や目標を共有しながら、お互いの立場を尊重し、信頼関係を深め、協働して園児の教育に励んでいる。

### 3. 魅力ある「子育て支援体制」の具現化

地域の学校教育・保育の需要をはじめ、子ども・子育てに係るニーズを調査し、その結果に基づいて、子育て支援ニーズへの本学園の対応を検討した。また、未就園児親子クラス「ぴよぴよ、ころころクラス」の希望者が増え、受け入れ人数を増やして対応した。その中で、親子で新しいバスに乗り、園外保育も楽しむことができた。

### 4. 認定こども園等の具体的方策検討

認定こども園について、検討してきた結果、平成30年4月1日より、「認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園」へと移行することが決定した。現在、認定こども園申請に柏原市と話し合いの場を設け、法人本部と連携し準備を進めている。

### 5. 魅力的な広報活動の実施と園児の確保

日々の活動を中心に、園庭開放や行事の観劇会などで、保護者も園に来ていただき遊びに参加しながら、園の様子を知り、幼稚園体験ができるようにした。当幼稚園に入園予定の園児を対象に、幼稚園体験日を設け、親子で幼稚園生活の体験を楽しめるようにした。

## 法人本部

### 1. 玉手山学園“元気”メソッド構想の推進

学園広報などの制作物、ウェブサイト、本部内掲示板などを通じ、各校園の諸活動・行事等を積極的に発信することにより、学生・生徒・園児、及び教職員の活性化と母校愛の醸成を図った。また、学内外のイベントへの参画を通じて、学園の元気を発信した。

「大学20周年」と「高校新校舎竣工」を記念する事業として「*Tama Project 2017*」の実行が決定した。学園全体の“元気”を発信するお祭り企画「玉手山学園祭～みんなが参加できるオープンフェスティバル～」(H29/8/27)を柱に記念事業を企画し、推進している。

### 2. 教育環境の充実 - 高校新校舎の建設（平成29年3月竣工予定）

鉄骨造8階建、延床面積6,259㎡の高校新校舎（高校本館）が、平成29年3月に竣工。

- ・地鎮祭（H28/3/24）上棟式（H28/9/16）学内見学会（H29/3/24）竣工引渡し（H29/3/30）を経て、無事高校に引渡しを完了。
- ・主な諸室：1階（事務室、入試広報室、校長室他）2階（職員室、生徒指導室、ラーニングコモンズ他）3階（進路指導室、ICT教室、普通教室他）4階～6階（普通教室）7階（生物実験室、物理化学実験室、多目的室）8階（音楽室、ピアノ実習室他）

### 3. 地域連携事業のための企画・提案の推進

原川沿いの桜ライトアップ・玉手山学園スポーツ教室・柏原市民総合フェスティバル等を通して、地域住民の方々に学園をより知って頂き、これら事業で学生・生徒・園児が成長できる機会を各所属と調整を行いつつ、柏原市との連携により実施することができた。

引続き「柏玉」包括連携協定の具現化・実践に努める。

地域連携を推進させるため、平成 29 年度地域連携公認プログラムの精査を実施した。

### 4. 職員のさらなる能力開発、視野・見識の拡大

平成 29 年度私学経営研究会（SKK）セミナープログラムを職員に案内し積極的な参加を推進した。また個人情報保護研修会の実施支援、安全運転講習会・メンタルヘルス研修会を実施し、職員の能力開発、視野・見識の拡大に努めた。

### 5. 安定した財政基盤の維持

平成 28 年度の事業活動収支差額比率は、補助金収入が当初の見込みよりも増加したこと、また、各部門における経費の節減効果が大きかったことなどにより、予算比 4.9%増加の 10.6%となった（詳細は「IV. 財務の概要（平成 28 年度決算の概要）」を参照）。

## IV. 財務の概要（平成 28 年度決算の概要）

### 1. 資金収支計算書

（単位：百万円）

収入の部			
科 目	平成 27 年度	平成 28 年度（予算）	平成 28 年度
学生生徒等納付金収入	4,121	4,370	4,359
手数料収入	93	97	81
寄付金収入	17	0	8
補助金収入	1,200	1,478	1,639
資産売却収入	0	0	3
付随事業・収益事業収入	68	71	90
受取利息・配当金収入	56	23	24
雑収入	120	104	136
前受金収入	853	928	837
その他の収入	1,118	162	176
資金収入調整勘定	△972	△935	△1,421
前年度繰越支払資金	3,559	3,820	3,820
収入の部合計	10,233	10,117	9,753
支出の部			
科 目	平成 27 年度	平成 28 年度（予算）	平成 28 年度
人件費支出	3,245	3,463	3,421
教育研究経費支出	1,210	1,132	1,081
管理経費支出	592	536	495
施設関係支出	826	1,961	1,893
設備関係支出	453	236	200
資産運用支出	166	204	204
その他の支出	181	240	234
予備費	-	32	-
資金支出調整勘定	△260	△109	△227
翌年度繰越支払資金	3,820	2,423	2,453
支出の部合計	10,233	10,117	9,753

#### (1) 収入の部

学生生徒等納付金収入は、主として大学・新設学部の学年進行により法人全体の学生・生徒数が前年度と比べて増加し、予算比では 10 百万円減少したものの、前年度比は 239 百万円増加の 4,359 百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が減少したため、予算比 16 百万円減少、前年度比 12 百万円減少の 81 百万円となりました。

寄付金収入は、予算比 8 百万円増加、前年度比 9 百万円減少の 8 百万円となりました。

補助金収入は、国庫補助金、大阪府補助金等の増加により予算比 161 百万円増加、前年度比 440 百万円増加の 1,639 百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比 19 百万円増加、前年度比 22 百万円増加の 90 百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、預金金利の低下のため、予算比では 2 百万円増加したものの、前年度比 32 百万円減少の 24 百万円となりました。

雑収入は、私立大学退職金財団からの交付金収入の増加により、予算比 32 百万円増加、前年度比 16 百万円増加の 136 百万円となりました。

前受金収入は、奨学金支給対象者が想定以上に多かったため、予算比 91 百万円減少、前年度比 16 百万円減少の 837 百万円となりました。

その他の収入は、前年度において第2号基本金引当特定資産取崩収入、差入保証金回収収入があったため、予算比では14百万円増加したものの、前年度比は942百万円減少の176百万円となりました。

その結果、収入の部合計は、補助金収入452百万円を未収入金として計上していることもあり、予算比364百万円減少、前年度比480百万円減少の9,753百万円となりました。

## (2) 支出の部

人件費支出は、大学・新設学部の学年進行に伴う教員増による人件費増の影響と、勤続年数が比較的長い教職員の退職が多かったため、予算比では41百万円減少したものの、前年度比は176百万円増加の3,421百万円となりました。

教育研究経費支出は、各部門における節減効果が大きく、予算比では51百万円減少しました。また、前年度において高校2号館解体工事があったため、前年度比は129百万円減少の1,081百万円となりました。

管理経費支出は、教育研究経費支出同様、各部門における節減効果が大きく、予算比42百万円減少、前年度比97百万円減少の495百万円となりました。

施設関係支出は、予算比では69百万円減少しましたが、高校本館建築工事にかかる支出により、前年度比は1,067百万円増加の1,893百万円となりました。

設備関係支出は、高校本館建築にかかる備品購入があったものの、新設学部設置にかかる備品購入等の支出が減少したため、予算比36百万円減少、前年度比は253百万円減少の200百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出23百万円、収益事業元入金支出50百万円、減価償却引当特定資産への繰入131百万円の合計額であり、前年度比37百万円増加の204百万円と予算どおりの執行となりました。

## (3) 翌年度繰越支払資金

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比30百万円増加、前年度比1,367百万円減少の2,453百万円となりました。



## 2. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科目	平成 27 年度	平成 28 年度(予算)	平成 28 年度
学生生徒等納付金	4,121	4,370	4,359
手数料	93	97	81
寄付金	17	0	8
経常費等補助金	1,134	1,084	1,190
付随事業収入	68	71	90
雑収入	120	105	136
教育活動収入計	5,553	5,726	5,864
人件費	3,243	3,486	3,463
教育研究経費	1,674	1,644	1,618
管理経費	633	581	538
徴収不能額等	0	1	1
教育活動支出計	5,550	5,712	5,619
教育活動収支差額	3	14	245
受取利息・配当金	56	23	24
教育活動外収入計	56	23	24
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	56	23	24
経常収支差額	59	37	269
資産売却差額	0	0	3
その他の特別収入	84	395	464
特別収入計	84	395	467
資産処分差額	385	62	62
その他の特別支出	0	2	2
特別支出計	385	64	64
特別収支差額	△301	331	403
〔予備費〕	-	16	-
基本金組入前当年度収支差額	△242	351	672
基本金組入額合計	△293	△1,787	△1,474
当年度収支差額	△535	△1,435	△802
前年度繰越収支差額	△1,553	△1,996	△1,996
基本金取崩額	91	0	75
翌年度繰越収支差額	△1,996	△3,432	△2,723
(参考)			
事業活動収入	5,693	6,143	6,355
事業活動支出	5,935	5,792	5,683

### (1) 教育活動収支

教育活動収入は、経常費等補助金等の増加により予算比 138 百万円増加、前年度比 311 百万円増加の 5,864 百万円となりました。

教育活動支出は、人件費が前年度より増加したものの、教育研究経費及び管理経費の節減に努め、予算比 92 百万円減少、前年度比 69 百万円増加の 5,619 百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比 230 百万円増加、前年度比 242 百万円増加の 245 百万円となりました。

### (2) 教育活動外収支

教育活動外収支は、予算比では 2 百万円増加したものの、受取利息・配当金の減少により、前年度比は 32 百万円減少の 24 百万円となりました。

その結果、経常収支差額は、予算比 232 百万円増加、前年度比 210 百万円増加の 269 百万円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、車両売却差額及び現物寄付等を計上したことと、施設設備補助金が前年度より増加したため、予算比 73 百万円増加、前年度比 383 百万円増加の 467 百万円となりました。

特別支出は、図書除却差額を計上したものの、前年度において建物処分及び借地権除却があったため、予算比横ばい、前年度比 321 百万円減少の 64 百万円となりました。

(4) 当年度収支差額等

基本金組入前当年度収支差額は、前年度よりも学生生徒等納付金、経常費等補助金、施設設備補助金等の収入が増加したことと、経費の節減効果等により、予算比 321 百万円増加、前年度比 914 百万円増加の 672 百万円となりました。

基本金組入額合計は、高校本館新築工事に係る第 1 号基本金への組入 1,822 百万円、過年度に繰延べた第 1 号基本金の取崩しによる減少 420 百万円などがあり、予算比 313 百万円減少、前年度比 1,181 百万円増加の 1,474 百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比 633 百万円増加、前年度比 267 百万円減少の△802 百万円となりました。また、基本金取崩額 75 百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比 709 百万円増加、前年度比 727 百万円減少の△2,723 百万円となりました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式 (×100)	平成 27 年度	平成 28 年度	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H27)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	57.8%	58.8%	1.0%	53.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	78.7%	79.4%	0.7%	73.0%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	29.9%	27.5%	△2.4%	33.2%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	11.3%	9.1%	△2.2%	9.3%
事業活動収支差額 比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△4.2%	10.6%	14.8%	4.7%
基本金組入後収支 比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	109.9%	116.4%	6.5%	108.6%
学生・生徒等納付金 比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{経常収入}}$	73.5%	74.0%	0.5%	73.7%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	21.1%	25.8%	4.7%	12.5%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.1%	10.4%	1.3%	11.8%

※大学法人（医療系法人を除く）全国平均「平成 27 年度版 今日の私学財政」より。

(注)「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

### 3. 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		
科 目	平成 27 年度	平成 28 年度
固定資産	19,275	20,941
有形固定資産	13,039	14,502
特定資産	5,709	5,862
その他の固定資産	527	576
流動資産	3,997	3,031
資産の部合計	23,271	23,973
負債の部		
科 目	平成 27 年度	平成 28 年度
固定負債	657	698
流動負債	1,452	1,439
負債の部合計	2,109	2,138
純資産の部		
科 目	平成 27 年度	平成 28 年度
基本金	23,159	24,558
繰越収支差額	△1,996	△2,723
純資産の部合計	21,163	21,835
負債及び純資産の部合計	23,271	23,973

#### (1) 資産の部

有形固定資産は、高校本館建設による建物及び構築物の増加などにより、前年度末比 1,463 百万円増加の 14,502 百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が 23 百万円、減価償却引当特定資産が 131 百万円増加したことにより、前年度末比 154 百万円増加の 5,862 百万円となりました。

その他の固定資産は、収益事業元入金増加等により、前年度末比 50 百万円増加の 576 百万円となり、固定資産合計では前年度末比 1,666 百万円増加の 20,941 百万円となりました。

流動資産は、高校本館建設等に伴う現金預金の減少等により、前年度末比 965 百万円減少の 3,031 百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比 701 百万円増加の 23,973 百万円となりました。

#### (2) 負債の部

未払金及び前受金は減少したものの、主として退職給与引当金が増加したため、負債の部合計は前年度末比 29 百万円増加の総額 2,138 百万円となりました。

#### (3) 純資産の部

基本金は、高校本館建設等による組入により第 1 号基本金が増加したため、前年度末比 1,399 百万円増加の 24,558 百万円となりました。

繰越収支差額(翌年度繰越収支差額)は、2.事業活動収支計算書(4)当年度収支差額等で述べたように、前年度末比 727 百万円減少の△2,723 百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比 672 百万円増加の 21,835 百万円となりました。

#### 4. 今後の課題

少子化が進行する中、学校界は厳しい競争的環境にあります。学生・生徒が増加したこと等により事業活動収入が前年度より増加し、さらに前年度に特別支出として計上した建物処分差額及び借地権除却差額が、今年度は発生しなかったこと等により事業活動支出が減少した結果、基本金組入前当年度収支差額は672百万円となり、前年度より大幅に増加しました。

平成25年度から平成29年度までを対象とした「第2期中長期計画」に基づき、学園の財政基盤の安定化を図るべく、今後も入学定員を確保し、教育の質及び学生へのサービス向上のために、ハード・ソフト両面からの投資は引続き積極的に行いながら、人件費や経費等の支出の制御に努めます。

管理運営体制については内部統制及び内部牽制の一層の強化を図ります。

※資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、及び文中の金額は、百万円未満を四捨五入しています。

【資料編】

関西福祉科学大学

1. 平成 28 年度進路状況

(単位：名)

	全体	社会福祉学部		健康福祉学部		保健医療学部 リハビリテーション学科	
		社会福祉学科	臨床心理学科	健康科学科	福祉栄養学科	理学療法学専攻	作業療法学専攻
卒業者	503	168	79	83	76	58	39
就職希望者	451	150	51	79	76	56	39
就職決定者	442	144	48	79	76	56	39
就職決定率	98.0%	96.0%	94.1%	100%	100%	100%	100%
進学希望者	23	3	17	2	0	1	0
進学決定者	23	3	17	2	0	1	0
進学率	100%	100%	100%	100%	—	100%	%

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 28 年度資格取得状況

(単位：名)

学部・学科・専攻・専攻科		社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	第一種衛生管理者 (単位取得者)	管理栄養士	栄養士	フードスペシャリスト	理学療法士	作業療法士	養護教諭一種免許状	栄養教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状「公民」	高等学校教諭一種免許状「福祉」	高等学校教諭一種免許状「保健」	中学校教諭一種免許状「社会」	中学校教諭一種免許状「保健」	特別支援学校教諭一種免許状 (単位取得者)
		社会福祉学部	社会福祉学科	31	3	35									6	4		5
	臨床心理学科		3	13														
健康福祉学部	健康科学科				76						70				24		23	9
	福祉栄養学科					53	72	17				1						
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻								56									
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻									37								
特別支援教育専攻科																		1

※現役での取得者数  
(平成 29 年 5 月 1 日現在)

関西女子短期大学

1. 平成 28 年度進路状況

(単位：名)

	全体	保育学科	養護保健学科	歯科衛生学科	医療秘書学科
卒業者	329	112	49	115	53
就職希望者	280	101	42	87	50
就職決定者	275	101	40	85	49
就職決定率	98.2%	100%	95.2%	97.7%	98.0%
進学希望者	3	2	0	0	1
進学決定者	3	2	0	0	1
進学率	100%	100%	—	—	100%

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 28 年度資格取得状況

(単位：名)

学科	歯科衛生士	保育士	幼稚園教諭二種免許状	養護教諭二種免許状	中学校教諭二種免許状「保健」	医療秘書士	介護福祉士	社会福祉主事任用資格	診療情報管理士
保育学科	/	110	111	/	/	/	/	112	/
養護保健学科	/	/	/	47	10	/	/	48	/
医療秘書学科	/	/	/	/	/	35	14	53	/
歯科衛生学科	92	/	/	/	/	/	/	115	/
医療秘書学専攻科	/	/	/	/	/	/	/	/	0

※現役での取得者数

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

関西福祉科学大学高等学校

1. 平成 28 年度進路状況

(単位：名)

	全体	特別進学 I コース	特別進学 II コース	進学 コース	保育進学 コース
卒業者	315	18	58	207	32
進学希望者	292	18	56	186	32
進学決定者	288	16	56	184	32
進学率	99%	89%	97%	99%	100%
就職希望者	21	0	2	19	0
就職決定者	12	0	1	11	0
就職決定率	57%	—	50%	58%	—

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

以上